

報道関係者各位  
プレスリリース

桑島智輝と安達祐実、レンズを挟んだふたりの日々

# 桑島智輝／安達祐実 写真集「我我」発売！！

株式会社青幻舎は、雑誌や広告、写真集などでの撮影、特にポートレイトのジャンルで活躍を続ける写真家桑島智輝が、その妻で俳優の安達祐実を日々撮り続けた写真集「我我」を9月に刊行します。

発売が間近に迫った写真集の表紙と、レイアウトの一部を初公開！



著者への取材などご要望がございましたら、下記担当までご一報下さい。

何卒よろしくお願い申し上げます。

株式会社 青幻舎 / 京都本社

〒604-8136 京都市中京区三条通烏丸東入梅忠町9-1

TEL 075-252-6766 / FAX 075-252-6770

広報担当:新庄清二 (shinjo@seigensha.com)

## ■ 書籍概要

桑島と安達は2011年に写真集の撮影の仕事がきっかけで知り合い、約2年半を費やした安達の写真集『私生活』（集英社）の発表を経て、2014年に結婚。その後、現在に至るまで、桑島は被写体として安達を毎日撮影し続けている。

撮影はフィルムカメラで行われ、出来あがった写真はL判のプリントの状態アルバムに入れて保管するというルーティンが続けられ、約8年経った今、264枚入りのアルバムは100冊を超え、写真は35000枚に及ぶ。その途方もない量のアーカイブから、本書では2015年11月13日の結婚記念日から、2人にとって初めての子どもの誕生を挟んだ、約3年間にフォーカスを当てた。

少し物が散らかった部屋、  
妊娠を控えて大きくなったお腹、  
出産直後の安堵感漂う病室、  
子どもが生まれてから初めての二人旅……

写真集に掲載された137枚の写真は、有名俳優である妻とフォトグラファーである夫という前提を忘れさせ、あらゆる要素が輪郭を失い、透明になっている。

妻と夫／被写体とフォトグラファー。レンズを挟んで営まれる夫婦の、家族の日常。そこにあるのはカメラを媒介にして成り立つ、ただひたすらに純粋なコミュニケーションのかたち。

晴れの日も嵐の夜も越えて、ふたりの日々は続く。

## ■ 著者のことば

人生は大変、だけど楽しい、けど大変、そして有限だ。

夫婦関係は天気のようなもので、

幸福の頂のように晴れた日もあれば、無間のごとき嵐の夜もある。

それら禍福と嵐の中で、臆せずトントンと写真を撮り続けてきました。

僕にとって妻を写すことは、未来への不安に対するささやかな抵抗であり、

写真は我々の変化の道程を順序だてる記憶の束なのです。

こんな夫婦がいた、と、人々の記憶の隅っこに爪の跡が残るように、

人生を、写真を、愚直と諧謔を携えて更新して行くのです。

そしてまた、永遠ではない日々が続いて行く

2019年8月15日

—— 写真家 桑島智輝

## ■ 書誌情報

発売：2019年9月14日完成、20日頃全国発売

書名：我我（がが）

著者：桑島智輝（写真・文）、安達祐実（文）

寄稿：平間 至

構成・デザイン：町口景

判型：A5／上製

総頁：168頁

定価：本体2,500円＋税

## ■ 著者プロフィール

桑島智輝（くわじま・ともき）

1978年岡山県岡山市生まれ。写真家。2002年に武蔵野美術大学卒業後、鎌田拳太郎氏に師事。04年に独立後、雑誌やタレント写真集、広告で活躍している。13年に、約2年半の安達祐実を収めた写真集「私生活」を発表。14年に結婚。今でも毎日、安達を撮影し続けている。不定期で更新している安達のオフィシャルwebの写真がネットで話題に。

<http://yumiadachi.com/>

<https://qwajima.com/>

<https://www.instagram.com/qwajima/>



おて目を見しるが  
目をさす。

写真を撮っている時の彼も美しいと思う。  
船酔いで吐き気がおきて、冷たくて張りつめている。  
私はそれに慣れる。小では舟がたいがらめです。



ちんちん食べた。



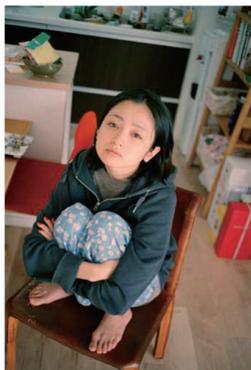
朝の自分下  
たのしみは 妻の仕事。  
そんな朝の過ごし方。  
三休日は 朝の過ごし方。  
双



五休. 11/29



田舎の朝  
いかに美しい。



行かなくて  
ヒミツあり



行く前が悪いのをいっしょに

ココにいる



お水がかわり目だ。  
お水がかわり目だ。  
お水がかわり目だ。